

## 「国際エコリゾート日光」の実現に向けて

東武グループでは、環境省と国立公園オフィシャルパートナーシップを締結し、歴史・文化・伝統と自然が共生する「国際エコリゾート日光」の実現と日光地域の持続的発展に向けて、以下の施策を推進しています。

### ○カーボンニュートラルの推進

スペーシア Xは従来のスペーシアと比べCO<sub>2</sub>排出量を最大40%削減するほか、本特急列車運行の使用電力相当分を東京電力エナジーパートナーのFIT非化石証書を活用したメニューを使用し、CO<sub>2</sub>排出量実質「ゼロ」となる電力に置き換え、「国際エコリゾート日光」の実現の一翼を担っています。



▲カーボンニュートラルで運行するスペーシア X

### ○バイオ燃料でバスを運行

東武バス日光では、環境省の脱炭素先行地域に選定された奥日光エリアをはじめとした日光エリアの路線において、2023年8月から廃食油由来のバイオ燃料バスの実証運行を開始しています。

実証運行後には、サプライヤーなどとの連携のもと、栃木県内の東武グループ各施設で生じる廃食油を用いてバイオ燃料を精製し、日光地域において運行する路線バス等で使用することで、地産地消型のエネルギーサイクルの構築を目指します。

この取り組みにより、CO<sub>2</sub>の排出量を年間70t以上削減できる見込みです。



▲バイオ燃料で運行する車両（大型バス）

### ○環境配慮型・観光MaaS「NIKKO MaaS」

「NIKKO MaaS」は、環境省の「地域の脱炭素交通モデル構築支援事業」として採択されており、同支援事業は、2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会を実現するため、温室効果ガスの排出を実質ゼロとする先導的モデルの構築を目指す先進的な取り組みを支援する事業です。

「NIKKO MaaS」は、脱炭素社会への移行と周遊観光の振興による地域活性化を同時に推進することで、観光地における脱炭素の取り組みのロールモデルとなることを目指しています。



## ○「奥日光エリア」脱炭素先行地域に選定

日光市及び東武鉄道と東京電力パワーグリッド栃木総支社は、環境省が全国の自治体を対象に募集した第3回「脱炭素先行地域」に共同提案し、日光国立公園を有する「奥日光エリア」が選定されました。

“雲の上のサステナブルリゾート「奥日光」：多様な観光資源と脱炭素による地元アップデート”と題する提案は、地域の脱炭素化とエリア全体の電熱レジリエンス強化を進めるとともに、環境保全をテーマとする教育旅行の拡大等によりサステナブルツーリズムの発信地・先進地として奥日光エリアの観光業の活性化を狙っていくものです。



▲「脱炭素先行地域 奥日光」をバイオ燃料バスでPR

脱炭素先行地域における

### 【電力の脱炭素化に関する主な取り組み】

- ・再エネ電力の導入・地産地消拡大
- ・災害に強いまちづくり

### 【電力以外の脱炭素化に関する主な取り組み】

- ・温泉熱を有効活用した脱炭素とエネルギーコスト削減
- ・NIKKO MaaSと連携したモビリティのスマート・グリーン化
- ・環境保全と景観向上
- ・環境保全を核とした教育旅行の拡大

なお、上記取り組みのうち東武グループが関わる取り組みとして、

「NIKKO MaaSと連携したモビリティのスマート・グリーン化」では、観光繁忙期の自家用車起因のCO<sub>2</sub>排出量削減や交通渋滞による生活利便性の低下といった地域課題の解決に向け、来訪者の公共交通機関への転換促進、公共交通機関の脱炭素化、地域住民・滞在者のEV利用率拡大をNIKKO MaaSを活用し、官民連携で進めていきます。



2030年度までに目指す地域脱炭素の姿

出典：「雲の上のサステナブルリゾート「奥日光」：多様な観光資源と脱炭素による地元アップデート」